
Ⅱ

公園緑地の 現況と 計画の評価

II

公園緑地の現況と計画の評価

1

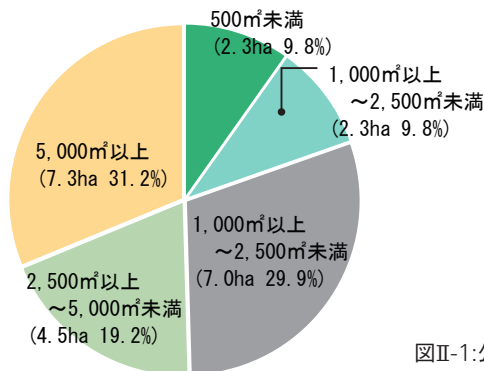
現状の把握

(1) 公園緑地の整備状況

本市の公園緑地の整備状況は、平成31（2019）年4月現在、整備面積が23.2ha（65.3ha）、整備数は178箇所（183箇所）、一人あたりの面積は1.59m²/人（4.45m²/人）となっています。

500m²未満の小規模な公園緑地が全体の約半分

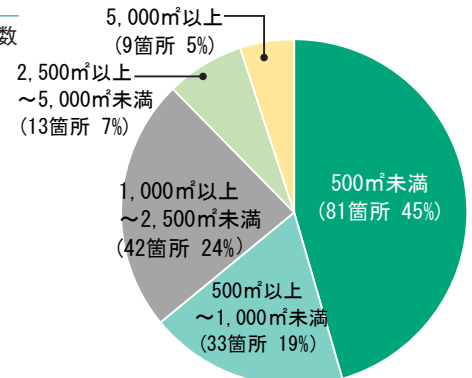
公園緑地面積



を占め、1,000m²未満も含めると64%と、小規模な公園緑地が多いことが特徴です。

また、広域的な公園としては、都立公園の井の頭恩賜公園、武蔵野中央公園及び小金井公園が整備されています。※（ ）内は都立公園などを含む

公園緑地箇所数

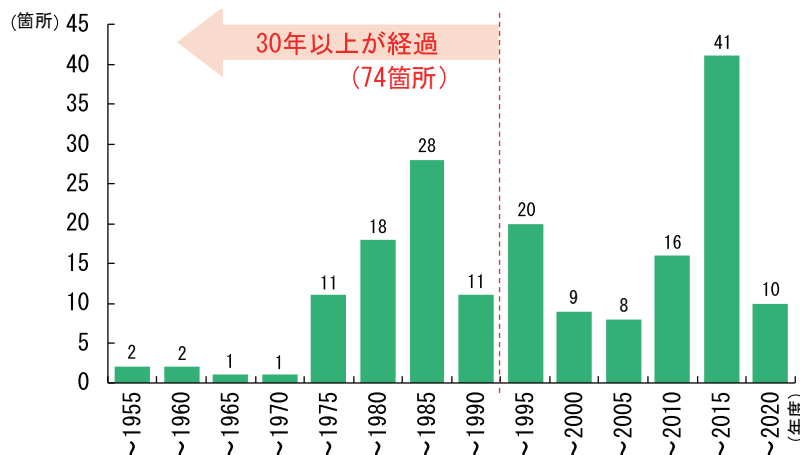


図II-1:公園緑地整備状況

(2) 公園緑地の整備時期の分布

本市における公園緑地の整備（新規整備及び大規模な改修）の実施年度の分布を見てみると、平成23（2011）年度から27（2015）年度までの間が41箇所と最も多く、この間に改修した数が多いことを示しています。一方で、昭和56（1981）年度か

ら60（1985）年度までに整備された数も多く、令和2（2020）年度時点では、平成2（1990）年度以前の74箇所が30年以上経過しており、引き続きリニューアルを計画的に進めることが必要となります。

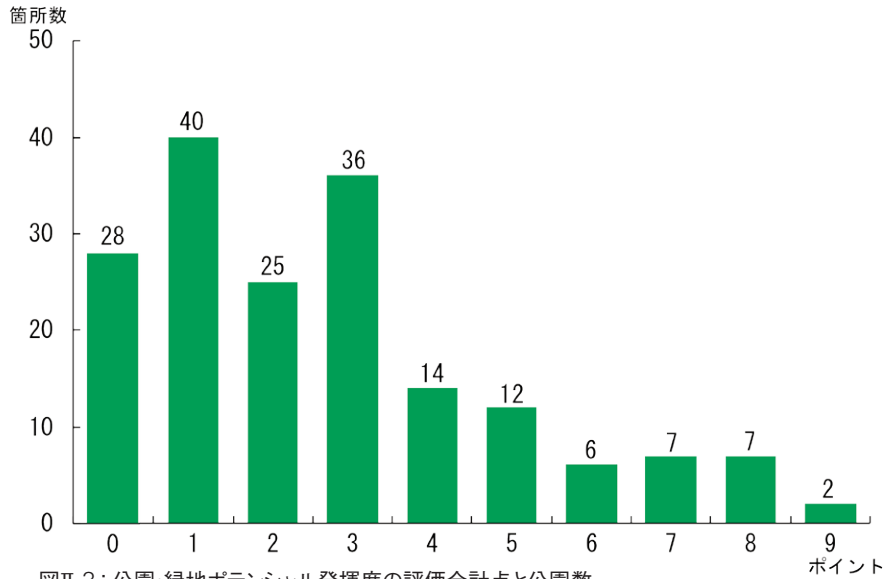


図II-2:公園緑地の整備年度の分布

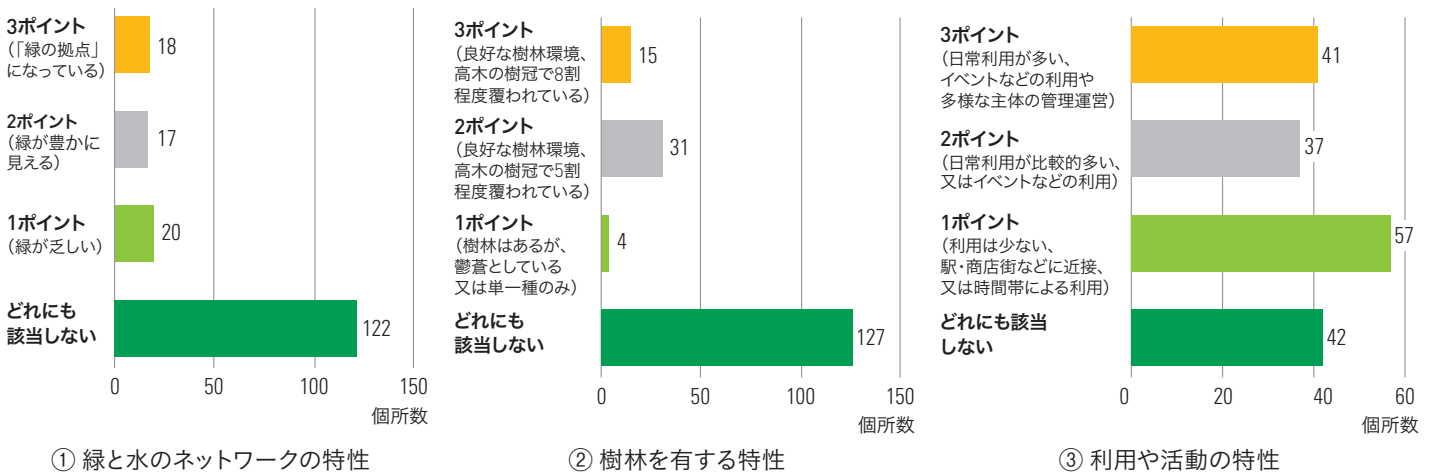
(3) 公園・緑地ポテンシャル発揮度

平成28(2016)年度の実態調査(「公園・緑地カルテ」)では、公園緑地の特性として、主に①地域の緑と水のネットワークを構成している②良好な樹林などがある③利用が多い・活動の場になっていることなどの既存の資源(ストック)を公園・緑地ポテンシャル発揮度として評価しています(①～③各項目最大3ポイント、合計最大9ポイント)。

その結果、合計点3ポイント以下が多く占めており、既存資源の発揮方法や活用について検討が必要ことがわかります。同様に項目別の③の評価において、人が集まりやすい立地にあるながら利用が少ない公園が多いことから読み取れます。(P.15「公園・緑地カルテ」の例参照)



図II-3: 公園・緑地ポテンシャル発揮度の評価合計点と公園数



図II-4: 公園・緑地ポテンシャル発揮度の各項目評価と公園数



緑と水のネットワークを形成する公園
(桜堤公園)



樹林型の公園 (境山野緑地)

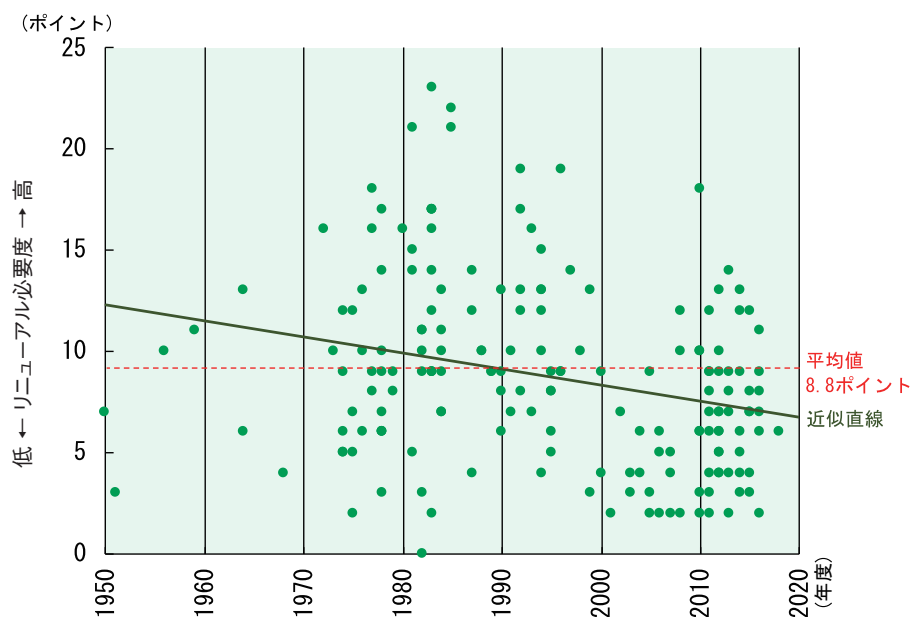


利用拠点となっている公園
(むさしの市民公園)

(4) リニューアル必要度

公園緑地の整備（新規整備及び大規模な改修）年度とリニューアル必要度の関係を見ると、整備年度の古い公園緑地はリニューアル必要度にばらつきがある傾向にあります。これは、管理や地域の活動などにより古くても良好に維持されている公園緑地があることと言えます。一方で、最近の10年以内に整備された公園緑地であっても、高

いリニューアル必要度を示すものもあります。これらは、施設などについては問題が無いものの、地域の景観形成や利用頻度が低い、周辺施設などと連携した利用が少ないなどの項目において課題が多いことが影響しています。（P.15「公園・緑地カルテ」の例参照）

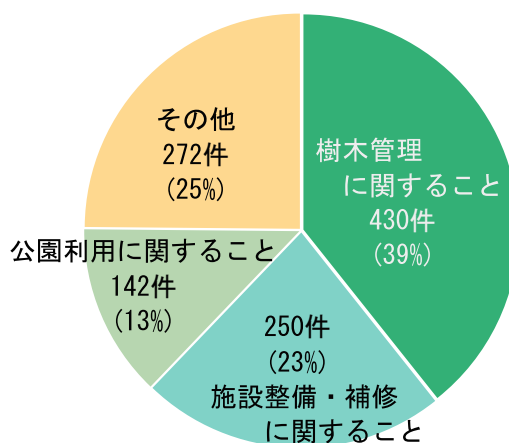


図II-5：公園緑地の整備年度とリニューアル必要度の分布

(5) 公園緑地に対する要望・意見

1年間に市に寄せられる公園緑地に関する要望・意見は、1,094件にのぼります（平成30（2018）年度）。そのうち39%が「樹木管理に関すること」、

次いで「施設整備、補修に関すること」が23%、「公園利用に関すること」は13%となっています。



図II-6：市に寄せられた公園緑地に関する要望・意見（平成30（2018）年度）

(1) 実態調査

計画改定に先立ち、市が維持管理する約180箇所の公園緑地の実態調査を実施しました。

既存資料より個々の公園緑地の概要、類型、整備履歴、整備内容を整理し、その後、踏査調査を実施し、施設や植栽の劣化状態、周辺環境や地域

条件などについて把握し、緑と水のネットワーク及び生物多様性などに寄与しているかなどを確認しました。また、現地で利用実態状況を確認し、市に寄せられた市民の意向についても把握しました。

(2) 公園・緑地カルテ

実態調査の結果をもとに、「公園・緑地カルテ」をまとめました。

1つ1つの公園緑地別に、基礎データと公園・緑地ポテンシャル発揮度、リニューアル必要度の評価結果を整理しました。

カルテはデータベース化し、様々な条件から客観的にポテンシャル発揮度、リニューアル必要度を比較することができます。また、全市域及び各地域での公園緑地の配置や公園の位置付けなどが把握できる公園区マップを確認しながら検討を行います。

これらの継続的な管理・運用により、公園緑地のリニューアルを進めます。

公園・緑地ポテンシャル発揮度の評価

「武蔵野市緑の基本計画2019」における緑の将来像に寄与する右表Aに示す3つを基本として、実態調査では、公園緑地のポテンシャルを既に発揮しているか、または、発揮すべきポテンシャルを持っているかについて評価をしています。

リニューアル必要度の評価

公園緑地のリニューアル必要度は、右表Bの3つの段階に分類して段階ごとに評価をしています。

必要度はポイント化（得点が高いほどリニューアルの必要度が高い）し、総合評価を算出しています。

《公園・緑地ポテンシャル発揮度の評価項目》(表A)

① 緑と水のネットワークを構成している

「武蔵野市緑の基本計画2019」の緑の将来像で示された「水と緑の軸」、「緑の軸」を構成する公園緑地、「緑の拠点」に位置付けられている公園緑地

② 良好な樹林を有している

地球温暖化、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の確保、地域の景観形成などに寄与する良好な樹林を有する公園緑地

③ 日常的に利用が多い、または管理団体がある

日常的に利用が多い、またはイベントでの利用がある、駅や商店街などの人が集まる場所に立地している公園緑地

《リニューアル必要度の評価項目》(表B)

① 施設修繕についての評価

- ・施設の老朽化・不具合への対応が必要か
- ・植栽の適正化が必要か
- ・バリアフリーの対応が必要か
- ・安全・安心の対応が必要か

② 機能改善についての評価

- ・防災機能の整備が必要か
- ・生物多様性や資源利活用などの都市環境に関する対応が必要か
- ・レクリエーション機能の改善が必要か
- ・景観形成に寄与することが必要か

③ 機能転換についての評価

- ・周辺の公園機能や特徴の重複の有無
- ・多様な主体や周辺施設との連携がなされているか
- ・街歩き・観光などに活用できるか

[参考資料]

公園・緑地カルテの例:基礎データ

No.〇〇

〇〇〇公園

公園概要	
番号	〇〇
名称	〇〇〇公園
かな	〇〇〇こうえん
都市計画	都計〇〇〇号
公園種別	都市公園
	街区公園
所在地	〇〇〇〇〇〇
面積(m ²)	〇〇〇
土地所有	〇〇〇

公園類型	
公園タイプ	広場型、遊び型、樹林型
公園の特徴	芝生広場と遊び場のある公園
開園年	S〇〇
隣接条件 (東)	〇〇〇
(西)	〇〇〇
(南)	〇〇〇
(北)	〇〇〇
防災機能	応急仮設住宅予定地、避難場所
管理形態	市
市民協働	NPO法人〇〇(〇〇管理)

地域条件	
用途地域	第一種住居地域
緑被率(%)	34/25%
人口密度(人/km ²)	23,913/13,111(人/km ²)
公園面積/一人(m ²)	2.98/4.53(m ² /人)
幼年人口指数(%)	15/12(%)
老年人口指数(%)	30/22(%)
周辺の公共施設	〇〇〇

利用実態	
・平日に、小学生のグループ、親子連れのグループの利用が多い。休日は特にボール遊び、ファミリー利用が多い。 ・自転車で来る人が多く、園内にも駐輪が見られる ・〇〇まつりなどが開催されている ・NPO法人〇〇による〇〇の管理 ・年2回花壇の植替を実施 ・毎月第3木曜定例作業	

主な苦情	
【施設設備の補修】 ・トイレ(壁面の落書き、詰まり、清掃) ・車止めの不具合 ・照明灯の不具合 【樹木管理】 ・枯れ枝の処理 ・芝生の管理	

公園写真

整備履歴	
S〇〇.〇〇	都市計画決定
S〇〇.〇〇	供用開始
H〇〇.〇〇	改修工事
H〇〇.〇〇	改修工事

整備内容	
施設	一般 フェンス、石積み、園名ウォール、鉄柵、ロープ柵、車止め、制札板、照明灯、時計塔、砂場、ブランコ、木製複合遊具、スイング遊具、スイングポール、水飲み、便所、ベンチ、倉庫、レンガ舗装、インターロッキング舗装、ダスト舗装、コンクリート舗装
	防災 避難場所標識
植栽	高木 イヌシデ、エゴノキ、キンモクセイ、ケヤキ、コブシ、サクラ、シラカシ、ユズリハ、ネズミモチ、ヒマラヤスギ、ミズキ、メタセコイア、ヤマザクラ、ヤマモミジ * 大木シンボルツリー2000あり
	中低木 ツバキ、アオキ、アベリア、ガクアジサイ、ツツジ類、ツゲ、ナンテン、ヒイラギナンテン
地被	芝、花壇、ササ

上位計画情報	
・「緑の基本計画」の「緑の拠点」に位置づけられ、緑の軸の中継地にある公園 ・「地域防災計画」における整備方針(2500m²以上の公園): 消防水利の設置、遮蔽率の高い樹木植栽、広場の確保	

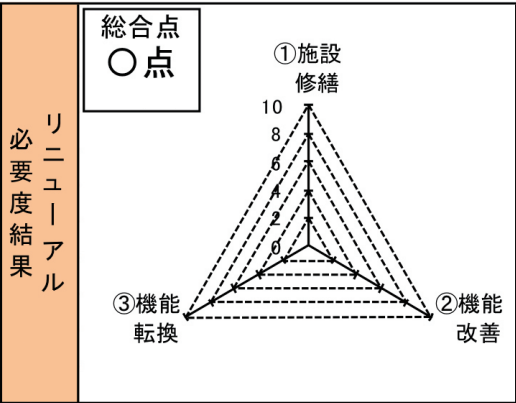
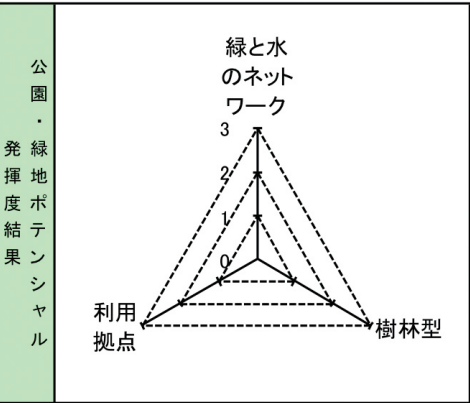
備考	

公園・緑地カルテの例：公園・緑地ポテンシャル発揮度、リニューアル必要度など

No.〇〇 〇〇〇公園

公園・緑地ポテンシャル発揮度				
評価項目		項目	* 特になければ0点	評価点
公園・緑地ポテンシャル	緑と水のネットワーク公園 緑の基本計画の「水と緑の軸」を強化する公園・緑地	・水と緑の軸、緑の軸の「緑の拠点」になっている(+3点)		合計
		・水と緑の軸、緑の軸の中継地の位置にあり、緑が豊かに見える(+2点)		
		・水と緑の軸、緑の軸の中継地の位置にあるが、緑が乏しい(+1点)		
	樹林型公園 地球温暖化防止やヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の確保、地域の景観形成等に資する良好な樹林を有する公園・緑地	・良好な樹林環境があり、高木の樹冠で概ね8割程度覆われている(+3点)		合計
		・良好な樹林環境があり、高木の樹冠で概ね5割程度覆われている(+2点)		
		・樹林はあるが、鬱蒼としすぎて暗い、または単一種のみである(+1点)		
	利用拠点公園 利用者が多く、イベント利用、駅や商店街等人が多く集まる場所に立地する公園・緑地	・日常的に利用者が多くかつお祭りやイベントなどの会場としての利用又は多様な主体が管理運営(+3点)		合計
		・日常的に利用者が比較的多い。またはお祭りやイベントなどの会場として利用(+2点)		
		・利用は少ないが、駅や商店街などの人が集まる場所の近くに位置している又は時間帯によっては利用がある公園(+1点)		

リニューアル必要度					
リニューアル計画		具体的なメニュー	項目	* 3段階は各々10点満点、点数が高いほど必要度が高い	必要度
① 施設修繕	施設の老朽化、不具合への対応	施設の取替え	・公園施設が全体的に老朽化又は大幅な不具合のある施設があるか：ある=2.0／ない=0		合計
			・長寿命化計画での施設の更新の位置付け：5年以内に半分以上=2.0／10年以内に半分以上=1.0／半分以上以下=0		
		施設の美観	・色彩・形状が景観に調和しない施設があるか：ある=1.0／なし=0		
		施設の適正	・サイン・ベンチ等の施設数は多すぎず少なすぎず適切か：適切でない=1.0／適切=0		
	植栽の適正化	明るく風通しのいい緑の空間形成	・鬱蒼として暗く、また、植栽間隔が狭く利用や管理の支障になる植栽があるか：ある=1.0／なし=0 ある場合の主な場所：		
	バリアフリー	バリアフリー化	・未対応施設：あり=1.0／なし=0		
	安全・安心	園内の見通し	・公園全体又は通りから見て見通しに問題あるか：ある=1.0／なし=0		
	飛び出し防止	・入口・接道部で飛び出しの防止策があるか：問題ある=1.0／問題なし=0			
② 機能改善	防災機能	「地域防災計画」に沿った施設整備	・公園の規模や位置付けに沿った広場、防災施設、外周の緑などが整備されているか：未整備=2.0 ／整備済・整備不要=0(広場、外周の緑)		合計
	都市環境の改善	生物多様性	・多様な自然環境があるか：環境が単一=1.0／樹林、草地、水辺など多様な空間がある=0		
		資源の利活用	・環境配慮施設(雨水活用、間伐材等の利用、ソーラー施設等)はあるか：ない=1.0／ある=0(間伐材)		
	レクリ機能の改善	レクリ施設・空間	・多目的広場や遊び・運動・散策等のレクリエーションの要素があるか：ない=2.0／ある=0(遊び、休憩)		
		利用の頻度	・利用状況：利用者はほとんどみかけない=2.0／時々見る=1.0／利用が多い=0		
	景観形成	緑景観の形成	・シンボルとなる樹木がある、又は季節を感じる花や緑があり美しい緑景観を形成しているか：ない・形成していない=1.0／ある・形成している=0		
		武蔵野の環境	・武蔵野の雑木林があるか、又は在来種が多い植栽がある：ない=1.0／ある=0		
③ 機能転換	公園タイプ	機能の特化・連携	・周辺の公園、隣接区市との公園機能の重複・特徴の有無：重複がある又は特徴がない=3.0 ／重複がない又は特徴がある=0		合計
	活用方法の検討	周辺との連携	・近くに公共施設や学校、企業等連携の可能性ある施設があるか：ない=3.0／ある=0(市役所、体育館) ・上記が「ある」場合：連携していない=2.0／一体的に利用・連携している=0		
		観光での活用	・周辺に活用できる観光資源(名所・旧跡等)がある、観光コース沿いにある、街歩きで楽しまれているエリアに位置するなど観光で活用される要素があるか：ない=2.0／ある=0(散策コース)		



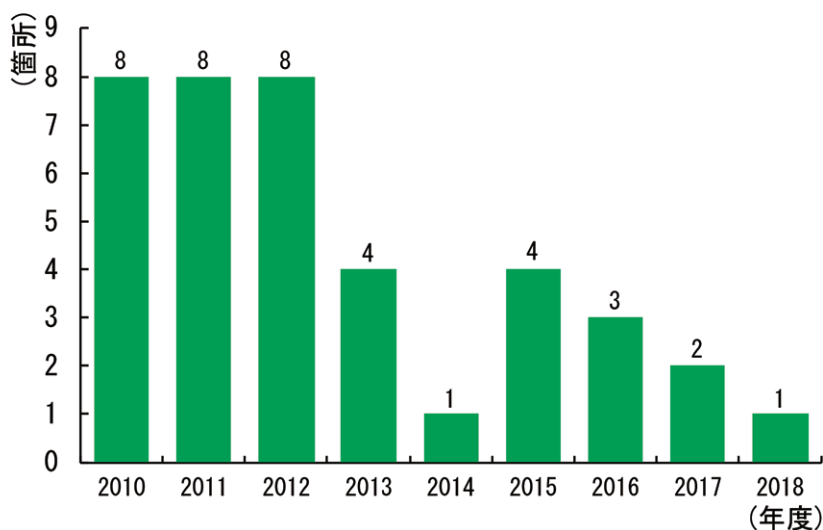
- 【周辺施設】
- ・〇〇〇
 - ・〇〇〇
- 【散策コース】
- ・「武蔵野市みどり公園ガイドブック(緑のまち推進課)」
 - ・「武蔵野市文化財散策マップ(市教育委員会)」
 - ・「武蔵野市ウォーキングマップ(武蔵野健康づくり事業団)」
- 【地域資源】
- ・〇〇〇

(1) 計画の評価

1) 計画の目標の評価

旧計画の目標として、公園緑地のリニューアル実施数があげられています。1年に5～6箇所のところ、平成22（2010）年度から平成30（2018）年度

までの平均実施数は4箇所/年であり、短期目標である5年間に27～30箇所の目安に対して実施数は29箇所であり、概ね目標を達成しています。



図II-7：公園緑地のリニューアル実施年度と箇所数

2) 公園緑地のリニューアル整備の評価

本市では旧計画を策定以来、「公園・緑地カルテ」の運用や計画の基本方針・公園区の考え方などに基いてリニューアル整備を行っており、計画に沿った進め方が定着したといえます。既存のストックを有効に活用し、安全・安心を確保する

整備を効果・効率的に進めてきました。また、リニューアルの対象となった公園緑地の整備にあたっては、住民参加による意見交換会などにおいて計画の考え方の啓発に努めるとともに、地域のニーズに対応した機能や施設の導入を行ってきました。

(2) 課題の整理

1) 関連する計画などの反映

「武蔵野市緑の基本計画2019」及び「武蔵野市第六期長期計画」などでは、公園緑地のリニューアルに関連する内容として、多様な主体や地域と連携し公園緑地の柔軟な運用を図る視点や、緑の持つ多様な機能を発揮するために広域的な連携、既存の資源（ストック）を有効活用する視点などが盛り込まれています。その他にも「武蔵野市緑の基本計画2019」の個別施策では、本計画の改定の他に、特色ある公園緑地の整備や次世代への緑の拠

点の継承、自然や農とふれあう機会を推進することなどが示されています。また、国や東京都では、生物多様性確保への一層の配慮、自然環境の多様な機能を発揮するグリーンインフラや公園緑地の柔軟な活用を推進するなどの動向があります。これらの視点・動向などを踏まえた改定が必要です。

2) 実態調査からみた課題

実態調査の結果から、公園緑地のもつ課題を次のように整理しました。

01

施設の老朽化への対応

- ◎ 安全点検に基づく修繕と大規模改修を組合せ、更新を進める必要があります。
- ◎ 老朽化などにより、利用されない遊具などの更新と利用促進を図る必要があります。
- ◎ 施設などの美観に配慮する必要があります。
- ◎ 近隣の意向を尊重しながらも、利用者にとって必要な施設などの更新や施設数の配置の検討が必要です。



規制サインが林立して美観の配慮が求められる(関前四丁目公園)

02

植栽の適正化

- ◎ 緑の少ない地域では公園緑地の緑が持つ重要性が高く、積極的な保全・育成が求められます。
- ◎ 緑の量と景観だけでなく明るさや風通しなど、利用面や維持管理面に配慮した植栽とする必要があります。適切な植栽間隔を維持して、樹木の健全性を確保する必要があります。



適切に管理された植栽地(むさしの市民公園)

03

安全・安心の向上、防災機能

- ◎ 特殊な立地や樹木の多い公園緑地では、園内の明るさや見通しの確保など、特に防犯面への配慮が引き続き必要です。
- ◎ 入口や接道部に飛び出し防止などの安全対策が引き続き必要です。
- ◎ 「地域防災計画」*などに基づく、求められる防災機能を引き続き整備することが必要です。

* 地域防災計画

：災害対策基本法の規定に基づき、武蔵野市防災会議が作成する計画

市の地域においてあらゆる災害の予防対策、応急・復旧対策及び復興を実施することにより、市民の生命、身体及び財産を守ることを目的としている



防災機能が配置された公園
(西久保二丁目防災広場)

04

景観形成

- ◎ 景観木や花木などにより美しい景観を形成し、地域の景観形成へと発展していくことが求められます。
- ◎ 四季の移ろいと武蔵野の緑を身近に感じることができる場として、雑木林などの樹林の保全が必要です。



水と緑の軸として景観形成が求められる緑地
(仙川しらかし緑地)

05

バリアフリーへの配慮

- ◎ 「バリアフリー新法」*1「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」*2への対応及び「武蔵野市バリアフリー基本構想」*3を踏まえたバリアフリー化が引き続き必要です。
- ◎ バリアフリーだけでなく「ユニバーサルデザイン政策大綱」などに基づき「どこでも誰でも自由に使いやすく」整備する必要があります。

*1 バリアフリー新法

：正式名称は「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」
従来のハートビル法(建物)と交通バリアフリー法(公共交通機関)を統合・拡大させたもの
新法では生活空間全体におけるバリアフリー化を進めることとしている(道路・屋外駐車場・都市公園)

*2 都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン

：バリアフリー新法に基づく都市公園における移動等円滑化に係る整備の内容を示したものであり、多様な利用者のニーズに応え、すべての公園利用者がより円滑に利用できるよう、公園施設の整備を行う際の考え方を示したもの

*3 武蔵野市バリアフリー基本構想

：本市のバリアフリーに関する基本的な考え方を示したもの
重点整備地区以外にも全市的なバリアフリー化などの取組みを示している



バリアフリー化された公園の出入口
(吉祥寺の杜 宮本小路公園)

06

都市環境の改善

- ◎ 多様な自然環境を形成し、生物多様性に配慮した整備が重要です。
- ◎ 自然資源や発生材などの有効利用を図り、都市環境に配慮することが求められます。
- ◎ 存在効用*4に着目し、都市部の貴重な緑被地を確保することが重要です。

*4 存在効用

：公園緑地が存在することによって、生物生息環境やヒートアイランド現象の緩和、防災効果、景観的な効果などの都市機能、都市環境などの効用のこと



都市部の貴重な緑陰
(中央通りさくら並木公園)

07

レクリエーション機能の改善

- ◎ 子どもの遊びや大人・高齢者の潤いと憩いの場、健康増進の場など、地域でのニーズを捉え、特色ある機能の強化や地域活動に寄与するレクリエーション機能の導入を検討する必要があります。
- ◎ 利用促進を図ることが求められる公園について、利用が少ない空間や施設などの改善を検討する必要があります。



レクリエーション機能の導入を検討する必要がある公園(本宿公園)

08

機能の連携

- ◎ 近接する公園緑地の機能の重複や、地域の中で特徴のない似たような機能の公園について、機能の分担や統合など、連携の検討が求められます。
- ◎ 公園の隣接地と一体的な利用を図るなど、既存公園の魅力の向上を検討する必要があります。



武蔵野プレイスと一体の広場
(境南ふれあい広場公園)

09

活用方法の検討

- ◎ 多様な主体の活動や周辺の学校・保育所・高齢者施設などと連携して、公園緑地が有効に活用されることが求められます。
- ◎ 周辺の名所などとともに公園緑地を市民や来訪者の街歩きや散策コースの立ち寄り場所として利用するなど、まちの活性化に貢献する検討が求められます。



散策の立ち寄り場所の緑地(仙川緑地)

4

改定のポイント

安全対策や老朽化した施設の対応、植栽の適正化、景観の向上など、旧計画から継承する留意点のほかに、前項の課題の整理から計画の改定にあ

たってのポイントを次のように整理しました。改定のポイントをもとに、次章の基本的な考え方や具体的なメニューなどに反映します。

① 公園緑地のポテンシャルを活かす視点

- ◎ 公園緑地の機能の分担や連携を図り、特色ある機能を強化して魅力アップを図る
- ◎ 地域のニーズに対応して、既存の資源(ストック)の有効活用を図る
- ◎ 緑と水のネットワークを活かし、街歩きや散策の立ち寄り場として周辺施設との連携を図る

② 緑のマネジメントと多様な主体による新たな連携の視点

- ◎ 多様な主体や地域と連携した公園緑地の柔軟な利用を支援するしくみの整備を図る
- ◎ 都・近隣自治体などと広域的な連携を図ることで、防災・生物多様性・環境配慮などの公園緑地の多様な機能を強化するとともに、グリーンインフラの推進と都市環境の改善を図る